

## 第9回 CIEC サタデーカフェ

### 開催概要

開催日:2022年1月15日(土)20:00~21:00

会場:Zoom によるオンライン開催

### プログラム

20:00 - 20:15 【 話題提供 】

スピーカー:石谷正氏(北海道霧多布高等学校校長)

テーマ:町の高校生が考える地域の魅力化~地域学「浜中学」から考えること~

20:15 - 21:00 【 フロアとのフリーディスカッション 】



第9回 CIEC サタデーカフェは「町の高校生が考える地域の魅力化」をテーマに北海道霧多布高等学校校長の石谷正氏による話題提供でスタートしました。霧多布高校は北海道の東側、釧路から70km以上離れた浜中町にある高校です。浜中町の人口は約5500人で、ハーゲンダッツの原材料生産地であり、ルパン三世の生みの親であるモンキー・パンチ氏の出身地です。町では、近年、人口減少が大きく、若年層の流出や高齢化の加速などが問題となっており、町を支える若年層の育成が急務だそうです。そこで、町立高校である石谷氏の学校で、地域学(浜中学:はまなかがく)を実施することで、自律的で持続的な社会を創出し、生徒の自己実現に寄与することができる高校づくりを推進、また学校自体が、生徒から選ばれる魅力ある学校へと進化することで入学者数が増加し、次代の地域の担い手の創出につなげる取り組みを行っているそうです。浜中学は、1年生では、見学や体験中心の活動を行うことで「浜中を知る」ことを行います。2年生では、課題発見を行い、調査実習や社会調査などのスキルを学ぶ「浜中を調べる」活動を行います。更に3年生では、町長や議員、地域住民に3年間の研究成果の発表を中心に行う「浜中を広める」活動が行われています。3年間の大きなプロジェクトですが、関わる教員は基本的には裏方で、生徒たちの力で進めます。教員も経験5年未満の若手の先生が多く、教えるというよりも一緒に学ぶという姿勢で進められています。この活動を通して、生徒たちが学び合い育ち合い、地域への愛着や誇りを生んでいく役割を担っているそうです。

話題提供のあと、フロアの方々とのディスカッションを行いました。そこではまず、霧多布高校についての質問がありました。石谷氏からは、「本当は経験豊富な教員に来てほしいが、なかなか難しい現状があり、若手の教員が多い。この問題は北海道の地方部ではどこでも抱えている問題なのではないか。」という話があり、それに対してフロアからは、「逆に若手の先生が多いと、新しいことにも取り組みやすくなるのではないですか?」という話も出されました。また、ICT活用に関わる話も出ましたが、霧多布高校では、スマートフォンの使用は学校内ではさせておらず、光回線も一部の地域でしか来ていないそうです。町としてはそのあたりのインフラの整備も今後の課題だということでした。ただ、生徒たちは GIGA スクール構想の影響もあり、どんどんスキルは高まっており、浜中町の小学生が普通に PowerPoint でプレゼンを行う姿を石谷氏はすでに目にしているようです。また、浜中町についての話も出され、これまでから、住みやすいまちづくりに力を入れており、小中高の給食の無償化や、スクールバスの運行、霧多布高校生の国内外視察旅行の費用援助など、積極的に町内の子どもを支援する施策を取り入れ、町を上げて子どもたちを育てている姿勢が伺えるようです。北海道内や東京などの首都圏からの1ターン移住者も多く、「この町で育った子が、また町に帰ってきて活躍してくれることを願っているのです。」という話もありました。地域の良さをきちんと知り、町を大切にしていって子どもたちを育てていくことの大切さを改めて考えさせられるカフェとなりました。

今回は13名の参加でしたが、学校教育として必要なことを認識し直す非常に有意義な1時間でした。今回の話題提供者である石谷氏を始め、ご参加頂いた方々にこの場をお借りして厚く御礼を申し上げます。(文責:平田義隆)

